

S I D R

(滋賀県感染症情報)

SHIGA Infectious Diseases Report

《月報》
平成 22年 2 月
(第5 ~ 8週)

発行年月日：平成22年(2010年) 3月23日
発行：滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター
電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

1) 全数報告の感染症(一類～五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 22年				平成 21年 ^{*1}		感染症 類型	疾 病 名	平成 22年				平成 21年 ^{*1}	
		1月		2月		1～12月				1月		2月		1～12月	
		滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	滋賀県	全 国			滋賀県	全 国	滋賀県	全 国	滋賀県	全 国
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	四類	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0		0	1	0	0	0	0	12
	痘そう	0	0	0	0	0	0		日本脳炎	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
	ベスト	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	1	0	0	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	
	結核	18	1,345	22	1,766	256	26,932	ペネズエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	コレラ	0	1	0	1	1	16	0	6	0	3	0	5	5	
三類	細菌性赤痢	0	16	0	11	0	180	野兔病	0	0	0	0	0	0	
	腸管出血性大腸菌感染症	0	88	0	78	27	3,886	ライム病	0	2	0	1	0	0	
	腸チフス	0	1	0	1	0	29	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	
	バラチフス	0	0	0	1	0	27	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	
	E型肝炎	0	2	0	7	1	56	類鼻疽	0	1	0	1	0	0	
四類	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0	レジオネラ症	0	41	0	42	8	73	
	A型肝炎	0	6	1	23	0	115	レプトスピラ症	0	0	0	0	0	1	
	エキノコックス症	0	1	0	0	0	26	ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	
	黄熱	0	0	0	0	0	0	五類	アメーバ赤痢	1	60	2	60	10	78
	オウム病	0	0	0	0	0	21	ウイルス性肝炎	0	4	0	19	3	27	
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	急性脳炎	0	26	0	26	8	52	
	回歸熱	0	0	0	0	0	0	クリプトスポリジウム症	0	1	0	0	0	1	
	キャサナル森林病	0	0	0	0	0	0	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	7	0	11	2	14	
	Q熱	0	0	0	0	0	2	劇症型溶血性 レンサ球 菌感染症	0	13	0	12	2	10	
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	後天性免疫不全症候群	0	66	1	119	9	1,44	
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	2	ジアルジア症	0	3	0	6	0	7	
	サル痘	0	0	0	0	0	0	髄膜炎菌性髄膜炎	0	0	0	1	0	1	
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	先天性風疹症候群	0	0	0	0	0	0	
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	梅毒	0	37	2	37	3	69	
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	破傷風	0	4	0	2	3	13	
	炭疽	0	0	0	0	0	0	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	
	つつが虫病	0	18	0	10	0	465	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	3	0	8	0	13	
	デング熱	0	3	0	8	0	93	風しん	0	6	1	5	2	14	
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	麻しん	0	28	0	40	7	73	
	鳥インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	新型インフルエンザ(H1N1) ^(*)	-	-	-	-	138	12,63	

*1 感染症発生動向調査事業年報暫定値(国立感染症研究所感染症情報センター)

(*) 集計期間は平成21年7月24日～平成21年8月24日。 - - 未集計

*1 感染症発生動向調査事業年報暫定値(国立感染症研究所感染症情報センター)

(*) 集計期間は平成21年7月24日～平成21年8月24日、- : 未集計

滋賀県における全数報告感染症の概要 (2月)

< 結核 > 22名

性別: 男性 13名、女性 9名
類型: 患者 20名
無症状病原体保有者 1名
感染症死亡者の死体 1名
病型: 肺結核 15名
その他の結核 7名

< A型肝炎 > 女性 72歳

推定感染経路は経口感染で、推定感染地域は日本国内です。

< アメーバ赤痢 > 男性 31歳、53歳

推定感染経路は2名とも経口感染で、推定感染地域は中華人民共和国およびインドです。

< 後天性免疫不全症候群 > 男性 28歳

推定感染経路は同性間性的接触で、推定感染地域は日本国内です。また、病名は無症候性キャリアです。

< 梅毒 > 男性 34歳、47歳

感染経路は異性間性的接触(推定)および性的接触(確定)で、推定感染地域は日本国内です。また、病型は早期顕症梅毒および晩期顕症梅毒です。

< 風しん > 男性 47歳

推定感染経路および推定感染地域は不明です。また、ワクチンの接種歴は1回目、2回目とも不明です。

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

2月の概要

<インフルエンザ>

第5～8週(2/1～2/28)の患者報告数数は、先月(第1～4週)の約1/4に減少していました。また、第8週(2/22～2/28)における県全体の定点当たり患者数は0.77となり、流行の目安となる1.00を下回りましたが、甲賀、彦根および高島では1.00を超えていました。

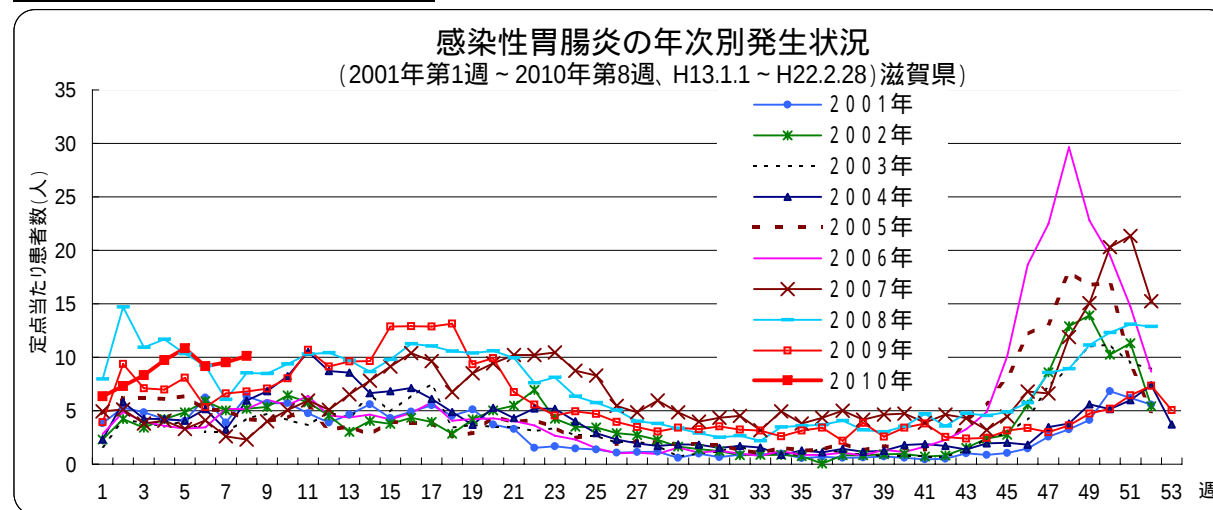
<小児科定点疾患>

先月より増加した疾患は、感染性胃腸炎、水痘、手足口病等で、減少した疾患は、咽頭結膜熱(プール熱)、伝染性紅斑(リンゴ病)および流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)です(他の疾患については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。特に感染性胃腸炎は先月よりさらに増加し、先月の約1.3倍となっていました。また、昨年同時期よりかなり多くなり、全国と同様に過去10年間では1番多くなっていました。保健所管内別の発生状況は、長浜で第5週に定点当たり患者数が警報開始基準値(20.00)を超え、第8週まで連続して警報終息基準値(12.00)を超えていました。

<眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月より増加し、急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。また、基幹定点疾患では、細菌性髄膜炎は東近江から、無菌性髄膜炎は長浜から報告がありました。マイコプラズマ肺炎は、甲賀からの報告がやや多くなっていました。クラミジア肺炎の報告は、ありませんでした。

感染性胃腸炎の年次別発生状況



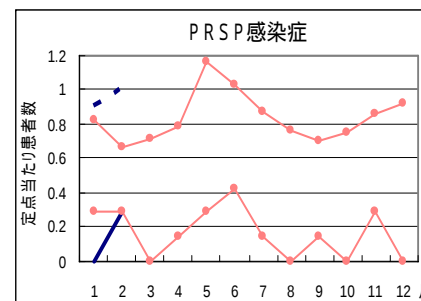
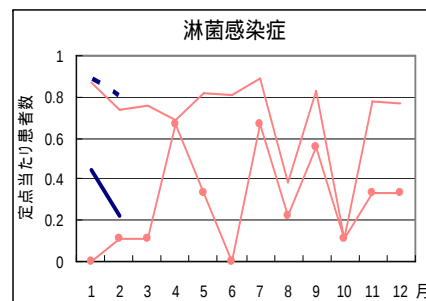
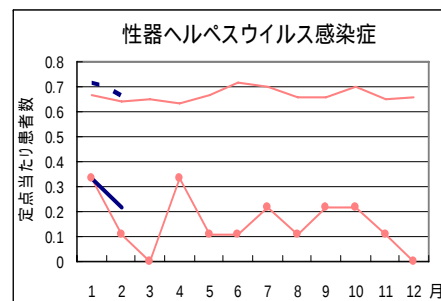
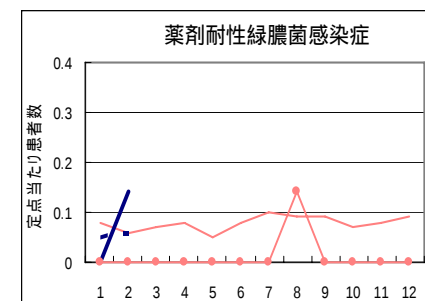
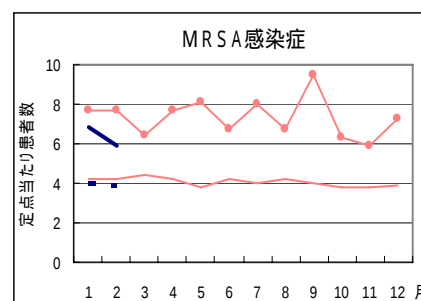
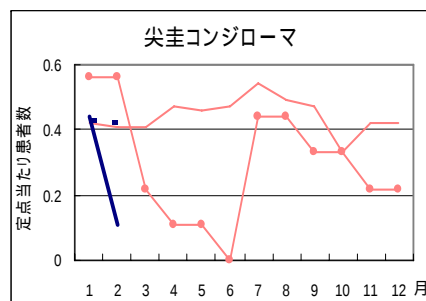
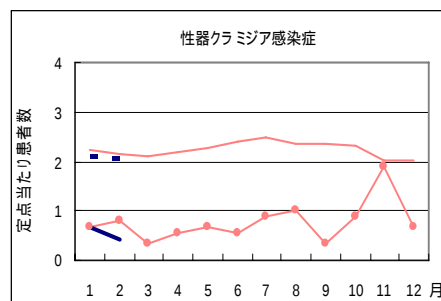
<各定点の対象疾患>

定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ**(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>) において公表されています。

3) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成22年2月)

疾患名	区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
性器クラミジア感染症	罹患数	6	4											10
	定点当たり	0.67	0.44											1.11
性器ヘルペスウイルス感染症	罹患数	3	2											5
	定点当たり	0.33	0.22											0.55
尖圭コンジローマ	罹患数	4	1											5
	定点当たり	0.44	0.11											0.55
淋菌感染症	罹患数	4	2											6
	定点当たり	0.44	0.22											0.66
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	罹患数	48	41											89
	定点当たり	6.86	5.88											12.74
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	罹患数	0	2											2
	定点当たり	0	0.29											0.29
薬剤耐性緑膿菌感染症	罹患数	0	1											1
	定点当たり	0	0.14											0.14

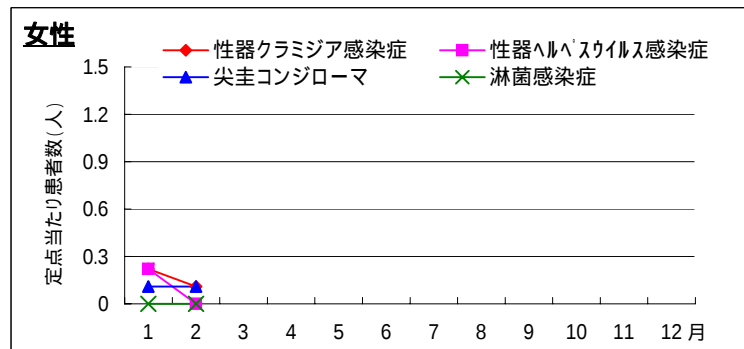
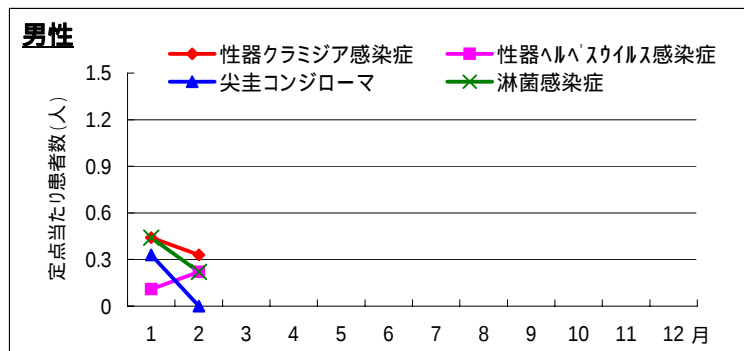


H21 { 滋賀 (red line with dots)
 全国 (red line)
 H22 { 滋賀 (blue line with dots)
 全国 (blue line)

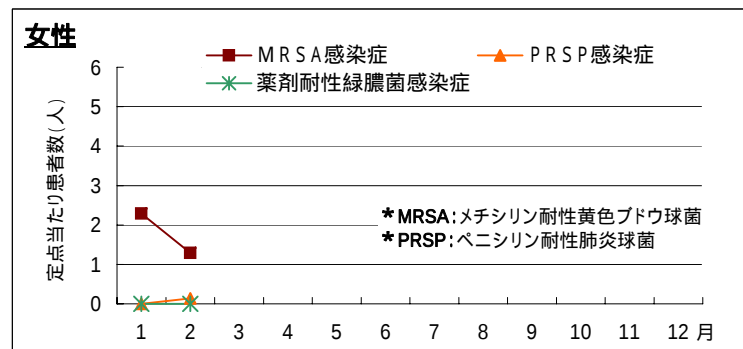
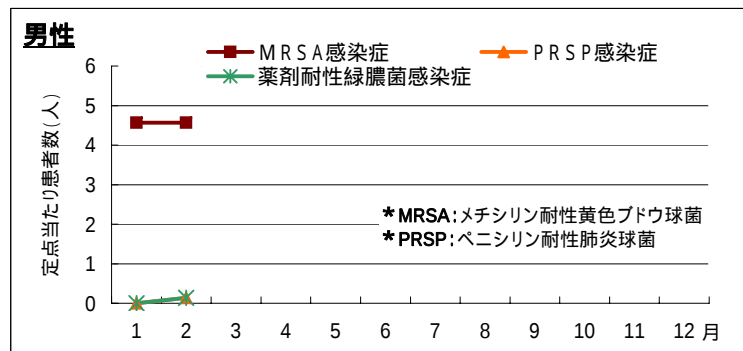
MRSA: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
 PRSP: ペニシリン耐性肺炎球菌

性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況を先月と比較すると、増加した疾患はPRSP感染症および薬剤耐性緑膿菌感染症で、減少した疾患は性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症およびMRSA感染症です。特に、尖圭コンジローマはかなり減少しています。

性感染症定点における疾患別発生状況
(H22.2)



基幹定点における疾患別発生状況 (H22.2)



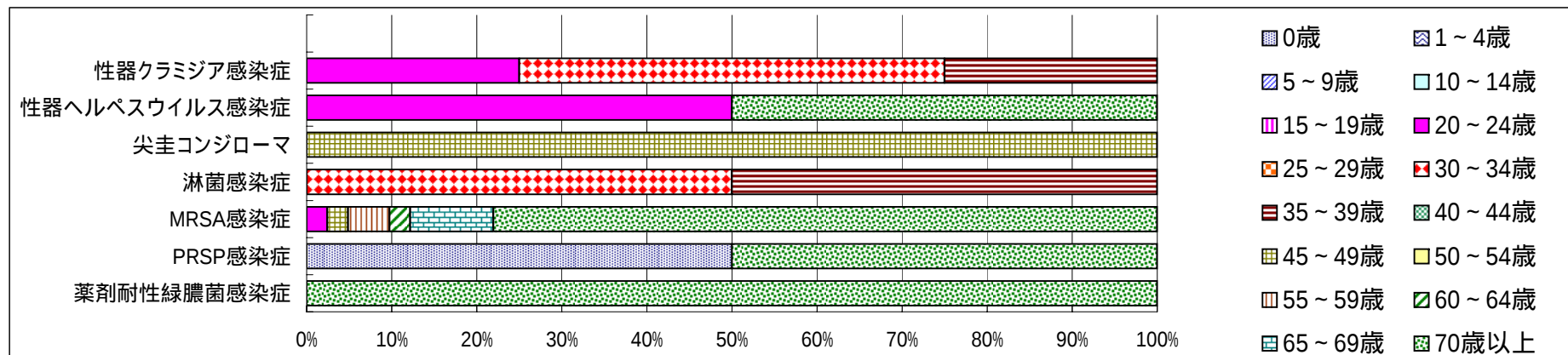
性感染症定点および基
幹定点における各疾患の
月別・性別発生状況は、
左記グラフに示すとおり
です。

尖圭コンジローマおよび淋菌感染症は、男性で先月よりかなり減少しています。性器ヘルペスウイルス感染症は、男性で増加し、女性で減少しています。MRSA感染症は、男性では横ばいで、女性では半減しています。

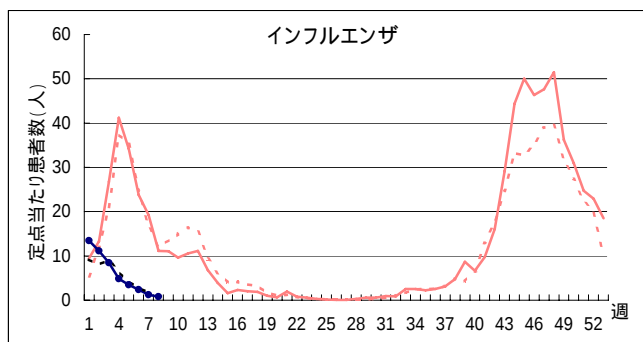
また、各疾患の年齢別発生状況は下記のグラフのとおりです。

性感染症の4疾患について、30～34歳および35～39歳からの報告が多くなっています。

疾患別・年齢別発生状況 (H22.2)

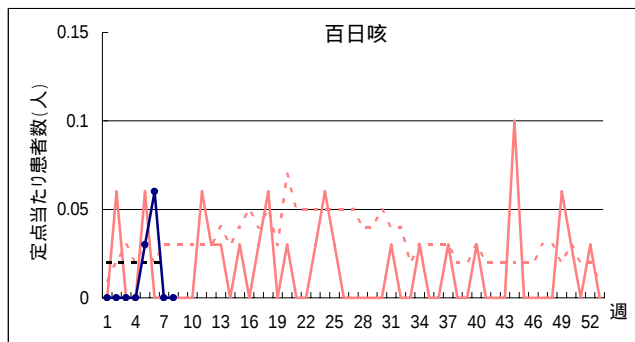
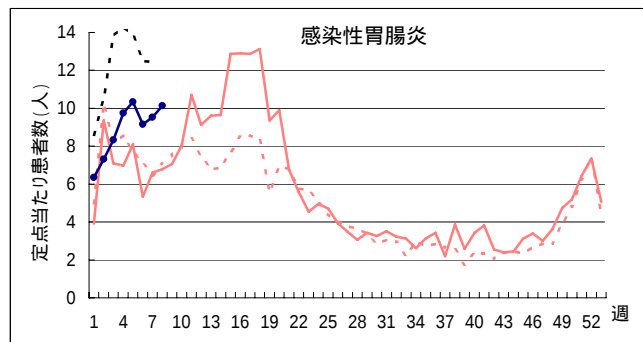
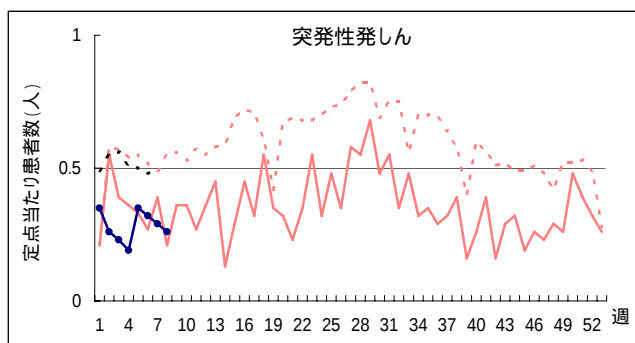
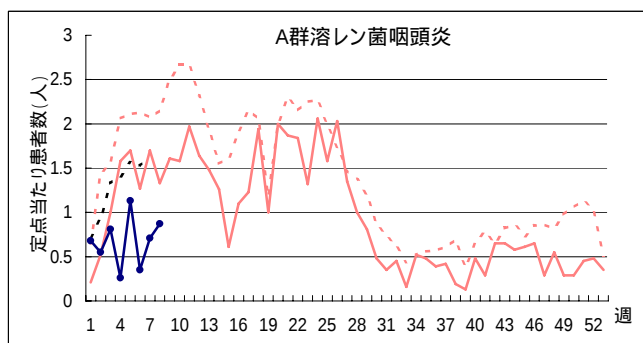
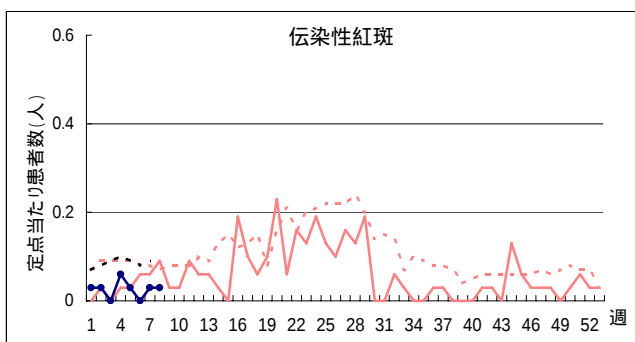
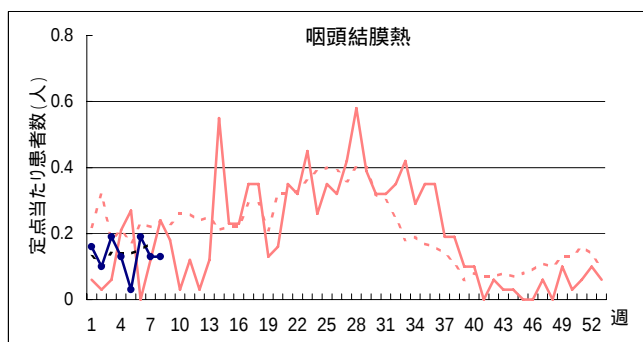
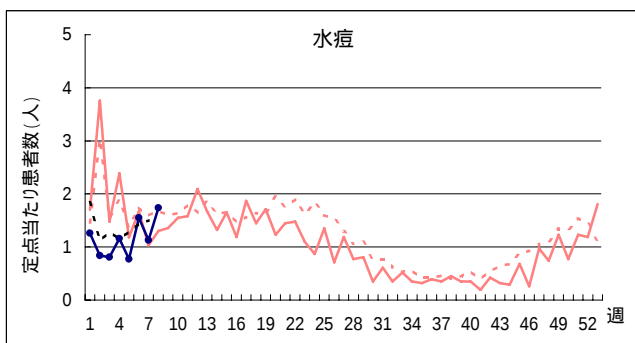
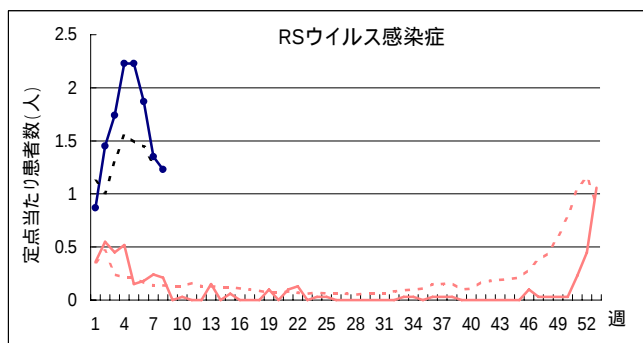


疾病別定点当たり患者数(平成22年第1～8週、H22.1.4～H22.2.28)



H21 { 滋賀 (solid red line)
全国 (dotted red line)

H22 { 滋賀 (solid blue line)
全国 (dotted blue line)



疾病別定点当たり患者数(平成22年第1～8週、H22.1.4～H22.2.28)

